

はじめての

万葉集

[vol.28]

日本に現存する最古の和歌集『万葉集』をわかりやすく紹介します。

葛はふ夏

夏から秋にかけて、河川敷や郊外の歩道、高速道路の路肩などに大きな葉っぱと長いツルが特徴的な植物を目にしたことはありませんか？ 紅色の香しい花房がついている時もあります。それが葛です。

葛は『万葉集』に詠まれており、古代から身近にある植物でした。強靱なツルが長くのびた様子をあらわす「真田葛延ふ」は永く絶えないことを比喻した表現です。「かく恋ひ」はそんな葛のツルが夏野に生い茂るように絶えず思い続ける恋をいいます。苦しい恋ですね。

繁殖力が旺盛ですので現在は厄介な雑草と化している葛ですが、じつはとも生活に役立つ植物でもあります。たとえば、根は薬用や食用になり

真田葛延ふ 夏野の繁くかく恋ひば
まことわが命常ならめやも

作者未詳

巻十 一九八五番歌

訳

(訳) ま葛ののびる夏野のように、しきりにこれほど恋うていたなら、本当に、私の命はどうかなくなってしまふのではないだろうか。

ます。葛根湯や葛粉はご存知ですね。

なかでも吉野の本葛は高級和菓子原料となることから全国的にも有名です。ちなみに古代の甘味料に「甘葛」がありますが、これは蔓(二説にはアマチャヅル)から抽出したもので、葛が原料ではありません。

葉にはアミノ酸が豊富に含まれ、食べることができません。家畜の飼料として利用していた地域もあったそうです。また裏面が白いため、風に吹かれると遠くからも目立って、独特の風情があります。

ツルからは良質の繊維がとれ、これを紡いで織つたものを葛布といい、絹のような美しい光沢があります。今も静岡県掛川で数軒の工房がその技術を伝えています。

このように、葛には無駄な部分が多ほとんどないといつてよいでしょう。有効に利用したいものです。



(本文 万葉文化館 小倉久美子)



国栖の里



問 国栖の里 観光協会 ☎0746-36-6838

「葛」という名前の由来

葛粉を使った葛まんじゅうや葛切りなどは暑い夏にぴったりの、涼しげな食べ物です。

ところで、「くず」という名前の由来を知っていますか？ この名前は、吉野町の国栖(くず)という地域が、その昔、葛粉の産地であったことに由来するといわれています。現在の国栖は、割り箸や和紙などを生産する「ものづくりの里」として知られ、県の景観資産にも登録されています。

万葉ちゃんの つぶやき

和歌に関連するものを紹介するよ!!

万葉ちゃん